

### 概要

- 半島先端の景勝地とウニの産地として年間100万人の観光客を魅了しているが、観光客の滞在性が低く、飲食の収益力向上や多様な水産物の付加価値・商品化、自然体験型観光の創出などによる漁村経済の好循環化が遅れている。
- 多様な水産資源等を活用した、“水産加工・物販、食提供・体験機能等”を備えた漁港・漁村交流拠点施設を官民連携により整備し、交流人口の増加や所得の向上を図り、漁港・漁村の賑わい創出を目指す。
- 官民連携による中間蓄養や藻場造成支援、漁村体験観光機能等を備えた海業振興拠点形成の創出を目指す。



### 海業の取組概要



海業関連施設（伝統施設）  
（ヤマシメ番屋・石蔵）



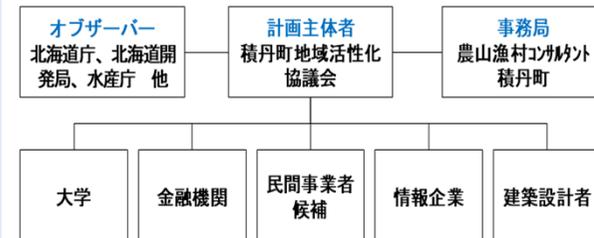
- 多様な水産資源の活用
  - ・加工、観光等の複合施設を整備し、多様な水産資源の商品化等による魅力の向上。
- 加工事業等の導入による通年での収益体制の確立
  - ・加工事業の誘導による冬期収益化と通年雇用体制の実現。
- 顧客の地域づくり参加やリピート率の向上
  - ・体験プログラムの提供による生産地域への関心向上や地域づくりへの参加及びリピート率の向上。
- 漁港背後集落の伝統施設の活用
  - ・漁業の歴史の伝承の場『ヤマシメ番屋・石蔵』を海業関連施設として整備活用。
- 中間蓄養や藻場造成支援、漁村体験観光機能等を官民連携により備えた海業振興拠点の形成

### 効果

- 通年雇用体制の実現
- 加工事業等による地元水産物の消費拡大
- 交流人口の創出による地域経済の活性化
- ブルーカーボン推進への寄与

### 協力体制

将来の事業化体制への移行を目指す（仮称）「積丹海業検討協議会」



※積丹町地域活性化協議会（構成：漁協、町を含む9団体）

### スケジュール

- 令和7年度 調査検討
- 令和8年度 事業化モデル計画・整備計画
- 令和9年度 整備事業化

## 概要

- 水族館や鯨御殿等の観光施設に隣接し、市街地から約5kmと好アクセスの第1種漁港。
- 祝津地区全体での定住人口は減少している一方で、ホタテやウニ、シャコなど知名度の高い漁獲があり、近年では若手漁業者の新規就労が進み、活力ある漁港となっている。観光面では令和6年度の小樽市観光入込数は800万人を超えると予想され、地域観光施設へも波及効果がある。
- 地域住民や漁業者が協力し「おたる祝津にしん・おタテ祭り」開催や「茨木家中出張り番屋リノベーション」等、にぎわい作りの取組みが進んでいるが、来訪者が地場の魚介類へ触れる機会やサービスは限定的で付加価値化には課題がある。
- 本取組みを通じて、旬の地魚を題材とした学びの場「おたる海の学校」を設け、漁場環境の保全、資源管理への取組み、漁業の面白さを見える化し、生産から消費までのサプライチェーンからバリューチェーン化することで、漁村の活性化を目指す。



## 海業の取組概要

- 「おたる海の学校」の立上げと運営。
- 旬の地魚教材開発（カリキュラム）及び運営
- 旬の地魚を活用した食育（さばき体験、調理体験）
- 食育教材となる水産加工品の開発
- 漁村歴史文化、自然環境を活用した教育旅行の商品開発
- 上記の試行による運営体制の整備



地域のにぎわいや所得向上、雇用創出に資する取組みへブラッシュアップ。  
 ・サービスや商品の販売拡大、 ・運営スタッフの雇用、 ・活動拠点の整備

## 効果

- ファミリー層をメインターゲットとした「おたる海の学校」を運営し地域活性化の基盤を形成することで、漁村・おたるブランドを育て、地域経済に貢献する。
- 小樽産の地魚の消費拡大（PR、体験プログラム、水産品の販売拡大）
  - 学びをベースとすることで、質の高い交流人口、関係人人口の獲得
  - 地域コミュニティの醸成、協力施設団体との協業体制づくり

## 協力体制

運営：NPO法人おたる祝津たなげ会

協力団体：小樽市漁業協同組合、小樽市、祝津町会、小樽観光協会、小樽商科大学、おたる水族館、北海道中小企業家同友会しりべし小樽支部、北海道海洋文化フォーラム、

## スケジュール

- |         |                |
|---------|----------------|
| 令和7年6月  | にしんおタテ祭りにブース出展 |
| 令和7年8月  | 海の学校・夏開催（ウニ）   |
| 令和7年11月 | 海の学校・秋開催（シャコ）  |
| 令和8年1月  | 海の学校・冬開催（ニシン）  |
| 令和8年4月  | 海の学校・春開催（海藻）   |
- ※順次カリキュラムを編成し教材を作成する  
 令和8年度 学校開催+教育旅行の受入れ



活動拠点のニシン番屋

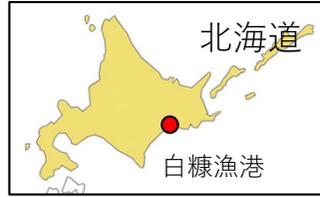


にしんおタテ祭り（H21～）

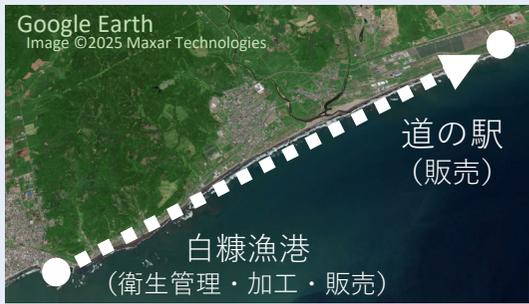
# 増養殖と安心・安全な水産物の加工、販わいの拠点となる漁港：白糠漁港（北海道白糠町）

## 概要

- 衛生管理対策に取り組んできた本漁港は、安全な水産物の加工規模の拡大および運営効率の向上のために、道の駅に加え、漁協直営の水産加工場と直売店の活用を計画している。
- 漁業所得の向上を目指し、漁港を活用した増養殖や漁業体験に関連する教育活動といった海業を取り入れながら、地域全体の活性化と地元水産物の消費拡大を目指す。
- 本漁港は、イベント開催や出前授業などの教育への取組で町と連携しており、浜の活性化は地域の発展の重要な鍵となっている。



## 海業の取組概要



### 土地利用 (蓄養)



### 販わい創出



## 効果

- ◆増養殖推進および民間企業の土地利用による地元の漁業所得の向上
- ◆衛生管理による安心・安全な水産物の加工及び販売規模の拡大
- ◆町と連携した販わい創出拠点としての活用発展

## 協力体制

白糠町  
白糠漁協・白糠漁協青年部  
民間企業（水産加工）

## スケジュール

- 令和7年4月 道の駅しらぬか恋問移転改装オープン
- 令和8年4月 漁港内加工処理施設 開業
- 令和8年5月 ホタテ稚貝放流  
ナマコ増養殖調査開始



衛生管理



直売所・道の駅



増養殖

### ホタテ・ナマコの増養殖に着手

▶水産資源の持続的な利用を促進し、主要魚種であるサケの来遊不振にも対応する。

### 衛生管理施設の活用

▶漁港の衛生管理施設に加工場を併設し、直売所および道の駅にて、安心・安全な水産物を提供する。

### 漁港の土地利用

▶民間企業が漁港活用による蓄養を実施し、地元水産物の高付加価値および販路拡大を推進する。

### 販わい創出の取組

▶白糠町および近隣地域から約7千人が集う大漁祭りや出前授業の開催拠点として、地域活性化に寄与する。

概要

- かつては「イカの町」として栄えた大畑地区では、スルメイカ・サケ等の回遊性資源の減少や、漁業者の高齢化・担い手不足が続いているが、「海峡サーモン」の養殖や地域団体による朝市・夕市の開催により活気を取り戻しつつある。
- さらなる浜の活気及び地域のにぎわい創出を目指し、大畑町漁協を中心に漁港を活用した魚類等蓄養や陸上養殖及び蓄養生け簀を活用した餌やりや釣り体験、並びに定置網漁業体験等の漁業体験コンテンツ構築のための調査・研究に取り組み、海業を推進する。



海業の取組概要



効果

- ・ 港内での魚類等蓄養及び陸上養殖により魚価の向上を図る
- ・ 蓄養生け簀を活用した餌やりや釣り体験ツアー及び定置網漁業等の体験コンテンツにより、地域水産物PR及び消費拡大を図る

協力体制

- ・ 大畑町漁業協同組合
- ・ 大畑小型定置漁業組合
- ・ 大畑底建網部会
- ・ 北彩漁業生産組合
- ・ 海峡ロデオ大畑
- ・ (一社)しもきたTABIあしすと
- ・ むつ市
- ・ 青森県

スケジュール

- 令和7年4月～12月 体験ツアー構築
- 令和7年6月～12月 蓄養及び陸上養殖の調査・研究
- 令和8年以降 宿泊事業、飲食事業への着手

その他：漁業体験ツアーの構築、宿泊事業、飲食事業の展開 等

## 概要

- むつ市協野沢地区は、下北半島の南西端に位置する漁業を基幹産業とした地域であるが、人口減少や漁業者の後継者不足により地域のにぎわいが失われつつある。
- そこで、交流人口の増大を図り地域のにぎわいの創出を目指すため、伝統産業である焼き干し加工を再興させるとともに、漁港を活用した焼き干し加工体験ツアーの構築及び朝市等の水産物直売イベント改良のための調査・研究、並びに改修予定の協野沢流通センター（フェリー乗り場、特産販売所）や既存の海水浴場を活用した海業の推進に取り組む。



## 海業の取組概要



焼き干し加工体験ツアー



朝市・夕市の開催

## 効果

- ・焼き干し加工体験ツアーの構築により、漁業者等の所得向上及び伝統的な特産品を再興させ地域振興を図る
- ・港内で開催する朝市をブラッシュアップし、さらなる地域水産物PR及び収益向上を図る

## 協力体制

- ・鯛島塾むらおこし会議
- ・協野沢村漁業協同組合
- ・(一社)しもきたTABIあしすと
- ・むつ市
- ・青森県

## スケジュール

- 令和7年5月～ 焼き干し加工体験ツアー構築
- 令和7年以降 焼き干し加工担い手確保及び加工技術の事業承継基盤づくり
- 令和9年中 流通センター完成

フェリー乗場

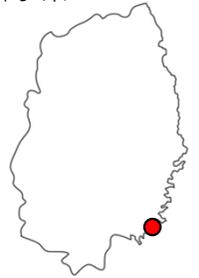
海水浴場

協野沢流通センター改修

概要

- 磯資源の資源回復・有効活用 …近年深刻化し、漁業資源減少につながっている磯焼け問題。その対策として増えすぎた痩せウニの移植や除去、蓄養を実施し、ウニ蓄養の拡大に向けた取組を推進。
- 浜の生活体験プログラム …ワカメなど養殖業の人手不足の深刻化に対応するため、2019年から開始した浜の仕事を経験する漁業体験プログラムの拡充を図り、受入人数の拡大等を推進。
- リアスを全身で感じる漁村ツーリズム …波静かなリアスの入江や、みちのく潮風トレイルを活かした体験ツーリズムを推進するとともに、生産者による食材提供やワークショップを展開。

岩手県



大船渡市綾里地区

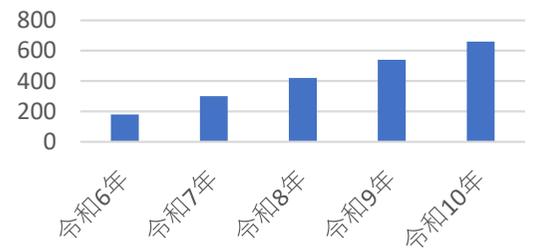
海業の取組概要



- ・天然海藻復活のため、痩せウニの移植・除去を実施。
- ・移植したウニを前浜地区の施設で蓄養。実入りを改善して冬季など天然ウニが少ない時期に出荷。持続可能な磯資源回復事業を目指す。
- ・3月～4月のワカメ収穫期、地域外の人材をアルバイトやボランティア・ダイバーとして受け入れる体験プログラムを実施。地域内ゲストハウスで浜の生活も体験。長期（5日以上）滞在者年間100人を目指す。
- ・「恋し浜ホタテピクニッククルーズ」や「おおふなトレイルツアー」など、湾内での乗船体験やみちのく潮風トレイルを活かした体験ツアーが人気を集めている。これに生産者による食材提供やワークショップを組み合わせ魅力を高める。年間受入人数目標は400人、インバウンド対応も実現。

効果

漁業体験プログラム・地域内ツアア参加者数



協力体制

- ・綾里漁業協同組合 ・岩手県 ・大船渡市
- ・(株)山海畑 ・(株)雨風太陽
- ・岩手開発産業(株)

スケジュール

- ・令和7年3月～ ワカメ養殖体験プログラムの実施
- ・令和7年7月～ ウニ採捕・ウニ剥き体験イベントの実施
- ・令和7年9月～ 外国語に対応した特設地域情報サイトの開設



綾里漁港のウニ蓄養池



外国人も参加する湾内クルーズ



ワカメ漁期の漁業体験

概要



- 2050年地球温暖化対策、温室効果ガス排出量「0」に向けたカーボンニュートラルの取り組み施策の一つ。
- 三方が海に開けている男鹿市の観光ポテンシャルを生かし、「海×脱炭素×地域経済循環」をキーワードに、漁業者が海藻増養殖に取り組むことで、海洋資源が維持・再生され、ブルーカーボンによる脱炭素が期待されると同時に認証後における海産物類のブランド化による活性化を期待する。

海業の取組概要



効果・期待する目標

- ・減少傾向にあるアカモクの再生に努める。令和6年0トン→令和11年5トン。
  - ・販路が少ないことで生産を抑えているため、新たな販路を確立し、養殖ワカメの生産拡大に努める。令和6年23トン→令和11年100トン※。
- ※戸賀湾全体のリソースを最大限活用した場合

協力体制

- ・男鹿市・秋田県水産振興センター
- ・秋田県漁業協同組合・秋田県立大学
- ・東日本電信電話株式会社宮城事業部

スケジュール

- 令和7年2月 秘密保持契約
- 令和7年3月 協定締結、報道発表
- 令和7年3月～令和8年3月 ドローンなどによる海洋調査検証
- 令和8年3月 ブルークレジット認証取得申請

概要

- 近年の環境変化の影響を受けアワビをはじめとする磯根資源が急激に減少しており、これまで海藻養殖試験を実施してきた。
- 港湾水域を活用した海藻増殖によりアワビ・ウニ等の磯根資源の安定供給を実現することで、地域資源を創出し浜の活性化に寄与する。
- 協力機関との協議を踏まえて協議会を立ち上げ、マーケティング戦略をもって地域の賑わいを創出し漁業や流通・販売・観光を含めた地域産業の活性化に寄与する。
- イベント開催によって賑わいのある漁港を創造し、漁港ストックの有効利用を図る。



効果

- 漁港における海藻養殖
  - 磯根資源の安定生産
- マーケティング戦略
  - 地域の賑わい創出
  - 地域産業の活性化
- 教育イベントの開催
  - 地域の賑わい創出
  - 担い手不足の解消

海業の取組概要



小名浜港湾全体図

これまで、

- 港湾内で漁業者・研究者・行政と海藻養殖試験を実施
  - ・ 海域調査
  - ・ ウニの駆除
  - ・ アラメ移植試験

これから（目標）、

- 協力機関との協議を踏まえて協議会を立ち上げる
  - ・ 漁業者・民間団体・行政・研究者・教育関係
- イベントの開催
  - ・ 担い手育成・食育・ブルーカーボン 等
- マーケティング戦略で地域のニーズを吸い上げる
  - ・ 計画案の作成・計画の実証
- 海域の実証試験ののち藻場を造成/資源の回復(再生)
  - ・ ウニ/アワビの餌となる海藻の供給
- ウニの陸上畜養試験
  - ・ 未利用なウニで陸上養殖→通年生産

地域の賑わいを創出  
 漁業や流通/販売/観光を含めた  
 地域産業の活性化



港外の密集したウニ



海藻養殖試験の取組状況



漁業体験



陸上養殖



藻場造成



ウニの貝焼き

協力体制

- いわき藻場保全研究会(いわき市漁協)
- 福島県小名浜港湾建設事務所
- 岡部 株式会社
- 株式会社 東京久栄
- 株式会社 富川企画

スケジュール

- 2025年～
  - 協議会の立上げ
  - 勉強会の開催
  - 海域試験の継続
  - マーケティング調査
- 2027年～
  - 計画策定/実証試験
  - 漁港活用の実証試験
  - ブランド力向上
  - イベント開催

## 概要

- 当地区は古来より漁業が盛んで、漁村、内陸型の黒部漁港、可動式の生地中橋はじめ多くの施設や、漁業にまつわる由緒ある歴史・文化を有する。また、漁港施設用地を有効活用したくろべ漁協直営店・「魚の駅生地（いくじ）」や釣り桟橋を備えた石田フィッシャリーナが点在している。
- これら連携を密にしながら漁村体験プログラム等を作成・実行し、交流人口の拡大を図る。
- また、山間地には年間宿泊者数30万人を数える温泉地を有するが、近く黒部宇奈月キャニオンルート  
の開放も予定されており、海と山が連携した周遊性のある観光コースづくりを進めていく。



## 海業の取組概要

**1. 「くろべの漁村プレミアムパッケージ」作成プロジェクト**  
⇒黒部の漁港周辺地域の全歴史・文化や漁村・漁業の魅力を活用した特別感のあるガイドツアーやワクワクする漁業体験等の提供を通じて、地域や漁業者の所得向上につなげていく。

**2. 「黒部のさかな」リバイバルプロジェクト**  
⇒黒部で漁獲される魚と黒部の特産品とのコラボレーション等を通じて黒部の魚のブランド化や魚価・漁業所得の向上につなげていく。

**3. 「あそんで、たべて、まなんで」黒部の漁村体験プロジェクト**  
⇒石田フィッシャリーナ等の既存施設を活用した体験・イベント等を通じて地元の賑わいづくりや地元愛の醸成、魚食の普及と将来の漁業者の担い手確保につなげていく。

**4. 「くろべの漁村体験・教育旅行」誘致プロジェクト**  
⇒黒部の自然や魚、歴史、文化等を体験し学べる教育旅行を誘致することで、魚食普及や地域活性化、関係人口の増加につなげていく。

**5. 漁村の空き家活用・整備&アクセス改善プロジェクト**  
⇒空き家等を活用した宿泊・滞在施設の整備やアクセスの改善等を進めていく。

**6. IKUJI⇄UNAZUKI 連携プロジェクト**  
⇒黒部宇奈月キャニオンルートから魚の駅生地まで山から海への連携を図ることで、集客等の相乗効果を図っていく。



海上花火大会の漁船パレード



黒部宇奈月キャニオンルート

## 効果

漁村の交流人口  
16万人（現状）⇒30万人（目標値）

## 協力体制

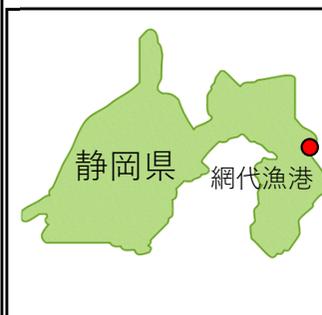
くろべ漁業協同組合  
富山県水産漁港課  
黒部市産業振興部  
（一社）黒部・宇奈月温泉観光局  
漁村文化ミュージアムIKUJI協議会  
黒部観光ガイド生地  
生地、石田自治振興会  
（一社）フィッシュマンジャパン  
魚の駅生地

## スケジュール

令和7年6月くろべ海業推進協議会設立  
～令和8年3月 漁村体験プログラムの  
プラン化、実証実験  
令和8年3月 漁村体験プログラム実施  
計画策定

概要

- 網代漁港は定置網の基地であり、毎朝様々な魚介類が水揚げされるが、野積場や荷捌所の一部など利用されていないエリアが散在し、その有効活用が課題となっている。また、網代地区は熱海駅周辺と比べ観光スポットが少ないため、観光客数は伸び悩み活気が失われつつある状況にある。
- そこで、定置網漁業の振興を図るための日曜市の開催のほか、海上釣り堀での釣り＆調理体験・飲食、荷捌所での陸上養殖等に取り組み、各取組の相乗効果により観光客を増加させることで網代漁港を核とした地域の賑わい創出を目指す。



海業の取組概要



日曜市会場の荷捌所



陸上養殖水槽



調理体験・飲食予定地

① 日曜日

網代漁業(株)・(株)雨風太陽他

定置漁業者（網代漁業(株)）による、一般消費者を対象とした鮮魚販売を毎月1回、荷捌所で実施する。

② 陸上養殖

かね哲水産(株)

漁協が給水設備を整備する。当組合員が荷捌所の空きスペースに養殖用水槽を設置して陸上養殖を実施する。生産物（クエ等）を網代の新たな特産品とする。

③ 海上釣り堀＆調理体験・飲食

海上釣り堀太公望

釣り堀で釣った魚を調理し、飲食できるサービスを当組合員が提供。

協力体制

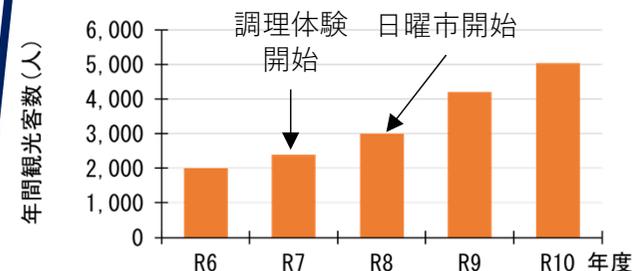
全体統括

いとう漁業協同組合

↑ 助言・サポート

静岡県(港湾企画課・水産振興課・熱海土木事務所)、熱海市

効果



網代漁港を訪れる観光客数の推移

スケジュール

- 令和7年 日曜日試行、調理体験開始
- 令和8年 日曜日開始  
養殖用設備の整備・事業開始
- 令和10年 釣り場開放検討

## 概要



- 河津町には「河津桜まつり」等の観光資源があり、毎年多くの観光客が訪れるが、新たな観光資源開発等は進んでおらず、従前の観光資源だけに頼った「外貨獲得」は頭打ちの状況にある。
- 下河津漁港は刺網・採貝藻・定置漁業の拠点であるが、水産資源減少や磯焼けにより水揚量は減少し、漁業経営は厳しい状況にある。また、漁港周辺地域の活性化のため、河津漁業経営振興会が主体となり、朝市、漁業体験、食堂営業にも取り組んでいるが、小規模な取組に留まる。
- 漁業・海洋資源、既存観光資源、未導入の新たなコンテンツを結びつけて新たな価値を創造し、これまでよりも多くの来訪者・外貨の獲得を図ることで、漁業者や関係事業者・地域住民・来訪者の「三方よし」の地域づくりを目指す。

## 海業の取組概要

引用元：Google社 Google マップ



### 海洋博物館

JTB GMT・JTB総研

国重要文化財に指定された「南禅寺仏像群」のレプリカを海底に設置する。  
これを目的としたダイビングの展開と、漁礁効果による水産生物の保護・増殖を図る。



### 動くホテル

JTB GMT・JTB総研

刺網休漁期間中の作業場をキャンピングカー(動くホテル)の駐車スペースとして活用。海の近くで宿泊、移動、食事を楽しめる新しいサービスを展開。利用者から停泊料を頂くビジネスモデルを構築。



### 藻の養殖

○Pure Biokeyz Japan株式会社

海外の最新技術提供を受け、空き倉庫等を活用して事業を実施。養殖した藻から各種食品原材料、食品（ミルク、代替肉類等）を生産。本港をモデルに藻養殖の新産業を創生し、町内へ展開することで地元収益増加を図る。



## 協力体制

JTB GMT

Pure Biokeyz Japan  
株式会社

JTB総研

企画・運営協力

技術提供

河津漁業経営振興会

支援

管理協力

静岡県・河津町

伊豆漁協

## 効果

- 動くホテル：R8年度売上10,000千円
- 藻の養殖：藻商品のR8年度売上1,000千円
- ➔交流人口拡大、新たな収益の確保により、地元経済活性化

## スケジュール

- R7年度
  - 藻の養殖：計画立案・実証実験
  - 動くホテル：(上半期)実証実験 (下半期)事業開始
  - 海洋博物館：計画立案
- R8年度
  - 藻の養殖：事業開始
  - 海洋博物館：実証実験

概要

港内の遊休施設等を有効活用した、マリーナや釣り事業の振興により、漁業者の収入確保を図るとともに、交流人口の増加により、地域産業の活性化、水産物の消費拡大

- 漁港におけるプレジャーボートやヨット等の受入れ（マリーナ事業）
- 釣り場管理・釣り堀、安全対策（釣り事業）
- マリーナ客・釣り客向けの地元水産物を活用した水産体験・漁港食堂（消費増進事業）



海業の取組概要

消費増進事業

- ・水産体験
- ・漁港食堂



マリーナ(静浦フィッシャリーナ)

- ・民間企業と漁協の共同事業
- ・浮棧橋、クレーンの設置



釣り事業

- ・釣り場管理
- ・有料駐車場
- ・安全対策協議会



効果

交流人口の増加  
(漁師の収入増、人材確保、消費増進)  
<目標>

- マリーナ事業  
PB：60艇  
交流人口：6,000人/年
- 釣り事業  
釣り客：31,500人/年

協力体制

静浦漁業協同組合、沼津市水産海浜課  
静岡県港湾局及び水産海洋局  
株式会社富士ボートینگ  
沼津マリーナ、ヤマハマリーナ沼津

スケジュール

令和7年10月 マリーナ事業開始  
令和7年10月 防波堤釣り利用  
令和8年以降 漁港食堂オープン

## 概要

- 首都圏からのアクセスの良さ、穏やかな湾、海越しの富士山などのロケーションや自然環境を活かし、マリンスポーツ、釣り、漁業体験など、レジャー・体験・教育・飲食の分野で海業を展開する。
- 活用推進計画を策定し、民間活力を活かした海業を展開をすることにより、地域所得や漁業者の所得の向上を図る。



## 海業の取組概要

### マリンレジャー

- SUP、カヤック、カヌー等のマリンスポーツ事業の展開
- 漁港エリアの釣り利用への開放調査
- 「海のルール」を定め、漁業とマリンレジャーの共存を図る

### 体験・教育

- 漁港を拠点とした漁業・養殖体験におけるコンテンツ造成

### 飲食・販売

- 漁協直営の「いけすや」を拠点としたフィッシュマーケットの開催等



## 効果

### SUP・カヤック事業

年間利用者目標数：1,000人  
年間収益：2,200千円

### 漁業・養殖体験のコンテンツ造成

年間利用者目標数：335人  
年間収益：1,005千円～1,675千円

## 協力体制

沼津市  
内浦漁業協同組合  
民間事業者

## スケジュール

令和8年：活用推進計画策定  
令和9年：海業実施事業者の選定、事業者間とのマッチング

## 概要

- 舞鶴漁港は京都府北部の若狭湾西部に面し、府内生産物取扱量の約8割を占めている水産物流通の中核的漁港であり、他府県船の利用も多い、いわば若狭湾魚介の集積拠点である。
- 漁港にほど近い「舞鶴港とれとれセンター」は、海産物即売所で舞鶴漁港で水揚げされた魚介類や、地域名産品が販売されており、新鮮な魚介をその場で食べられることから観光客に人気の場所である。
- 本事業では、観光客が、舞鶴漁港で水揚げされた魚介や競りを目の当たりにし、漁師や仲買人賑わいや漁港の景色とともに新鮮魚介を食べる機会を創出し、体験型PRを強化する。



## 海業の取組概要

## 取組1. 「見える」産地市場と体験型PR



競り市の見学、産地・魚・出荷等の解説等、漁港での観光体験を造成し、メディアトリップ等の実施により、その臨場感のある魅力を発信し、市場の魅力を最大限PRできる仕組みを構築する。

## 取組2. 食事提供



獲れたての魚介をその場で食せるのは、海の観光圏を訪問した観光客の一番の夢である。モニターツアーを実施し、府内の一大産地市場である舞鶴にてそれを実現させる。

## 効果

臨場感あふれる競りや、獲れた魚を漁港その場で食す美味しさは体験してこそ。メディアに体験いただき肌で感じるようなPRを展開

## 協力体制

京都府漁業協同組合や伊根町などを構成員とする「京都府海業推進協議会」にて協議、実施体制の構築を図る。

## スケジュール

令和7年5月関係者協議開始  
 令和7年6月漁港見学ルートの整備  
 ソフト・ハードのブラッシュアップ、戦略づくり  
 令和8年3月戦略に基づくPR展開  
 令和8年5月体験メニューの試行

概要

- 漁港管理者である舞鶴市が、西大浦漁港区域内に、『豊かな海とのふれあいを通じて、人々が交流する、潮風香る公園』をコンセプトに「舞鶴親海公園」を設置。
- 海に親しむ憩いの場、海を基調とした自然との触れ合いの場及びレクリエーションの場として、海釣り護岸・漁村活性化センター（レストラン）・親水池等を設置し、都市との交流を図ることにより、地域の活性化を図っている。



海業の取組概要

☆施設

舞鶴親海公園内には「海釣り護岸」、「漁村活性化センター（レストラン）」、「親水池」があり、海に親しみながら食事を楽しめる。



【海釣り護岸】

季節ごとの魚を釣ることができ、初心者からベテランまで他府県から多くの利用客が訪れている。

近年、大阪等都市部のダイバーにより、根がかりした海中の釣具の回収が実施されている。



【漁村活性化センター】

レストランでは、地魚を中心に提供。舞鶴で人気の海自カレーも提供している。また、地元での宴会需要にも対応。海釣り護岸利用客向けに釣具を販売。



【親水池】

日本海側特有の干満差が小さい立地を活かし、電力を使用せず常時海水が入替る仕組みを導入。

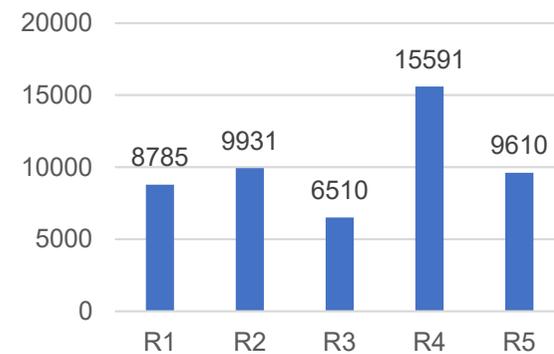
砂浜になっており、幼児でも海に親しむことができ人気がある。

☆管理・運営

指定管理者（農業法人ふるる）が管理運営。自主事業として、海釣り教室や魚つかみイベントを計画。

効果

【海釣り護岸利用者数(人)】



協力体制

農業法人ふるる(公園指定管理者)  
京都府漁業協同組合舞鶴支所(生産者)  
京都府舞鶴市(漁港管理者)

スケジュール

令和7年5月 関係者協議開始  
令和7年6月～ イベント企画（内容・開催時期の検討）  
令和9年9月～ イベントの試行  
令和8年5月～ 本格実施

概要



- 基幹産業である大型定置網漁業をはじめ、個人による採介藻漁業や釣り漁業が営まれている。
- 平成15年より漁港の荷捌き所を活用した食事提供事業（通称「漁港めし」）を開始し、人気を博したものの、人員不足によって営業日数を短縮せざるを得なくなり、令和6年度は休業するまでになった。
- 今後は人員不足に影響されにくい新たな体験メニューを検討するなど現在の体制に見合った運営計画を立て、漁港のにぎわいの創出を図っていく。

海業の取組概要



【本庄漁港】

- ・丹後半島最北端に位置する自然豊かで、のどかな田舎の漁港。
- ・海底の砂地が見える美しい海水を持ち、「仁淀ブルー」的ブランディングのポテンシャルもある。
- ・心癒される漁村風景を眺めながら新鮮魚介が楽しめる野外食堂「漁港めし」が人気になっている（H15開始、R6休止）。
- ・地元水産会社が、漁港で水揚げされた魚の加工を行っており、観光的には加工・料理体験&お当地土産の商品化が期待される。

効果

「漁港めし」や「加工食品」の認知拡大や一般観光客の利用による交流人口と収益の拡大

協力体制

京都府漁業協同組合や伊根町などを構成員とする「京都府海業推進協議会」にて協議、実施体制の構築を図る。

スケジュール

- 令和7年5月関係者協議開始
- 令和7年6月漁港めし再開
  - ソフト・ハードのブラッシュアップ、戦略づくり
- 令和8年3月戦略に基づくPR展開
- 令和8年6月体験メニューの試行

取組1. 漁村の景色と共に獲れたて魚介が食せる空間拡充

- ・食事空間、トイレなどの施設環境整備
- ・地酒と楽しめる等のメニュー整備及び送迎などの整備
- ・上記を実現するための体制構築、人材育成（研修等）



写真：蒲入水産「漁港めし」

取組2. 体験の商品化

- ・住民に学ぶ郷土料理教室、加工等、体験性の拡充



地域水産会社で郷土料理の加工体験

## 概要

- 京都府北部の京丹後市網野町に位置する浅茂川（あさもがわ）漁港は、昭和26年に第2種漁港に指定された漁港で、主な漁法として機船底曳網、一本釣、水視、刺網漁が行われている。
- 漁船と遊漁船を兼ねた船舶が多くあり、釣果も充実していることから、近年、京阪神を中心に全国から遊漁船客が訪れる漁港として注目を集めている。  
遊漁船業と漁業が共存できる漁港の環境整備を進め、合わせて遊漁船業と観光業の連携により、都市部からの遊漁船客をターゲットとする滞在型観光を促進する。



## 海業の取組概要

- (1) 遊漁船業と漁業が共存する拠点港
  - ①漁港を活用した水産・釣りイベントの開催
  - ②駐車場の整備
  - ③公衆トイレの設置
- (2) 遊漁船業と観光業との連携による滞在型観光
  - ①遊漁船客の宿泊施設及び周辺観光スポット等への誘導
  - ②遊漁船と宿泊を同時に予約できる仕組みの検討



【浅茂川漁港に着岸する遊漁船】



【浅茂川漁港全景】

## 効果

漁業者と観光業者との連携により、遊漁船の利用を目的とする来訪者の市内での宿泊及び滞在を促すことで、地域全体の経済活性化が見込まれる。

## 関係者連携

京都府漁業協同組合（漁業者）  
網野遊漁船団（遊漁事業者組織）  
京丹後市観光公社（観光事業者）  
京丹後市（漁港管理者）

## スケジュール

令和7年5月 関係者協議開始  
令和7年夏頃 飲食店営業開始  
令和8年3月 ソフト・ハードの  
ブラッシュアップ

概要

- 山陰海岸国立公園に位置する久美浜湾は、砂州を挟んで日本海と隔てられた周囲28kmの潟湖で、内海に広がる養殖牡蠣棚を見渡す景観は、京都府文化的景観に指定されている。
- 久美浜湾内に整備されている久美浜港を拠点に、日本海では定置網漁業、内海ではカキやとり貝の養殖が行われている。
- 海業分野では、定置網漁業体験、遊覧船・遊漁船の運航、釣筏の設置、マリンアクティビティ等の取組が展開されている。
- 久美浜港に水揚げされる水産物の食事提供や、風光明媚な久美浜湾周辺の四季折々のフォトジェニックな映えスポットを活用した漁業ツーリズムの促進など、漁村・内湾ならではの地域資源を活かした誘客による地域活性化を図る。



海業の取組概要

(1) 体験型地産地消と滞在型観光

- ①定置網漁業体験で自ら獲った水産物を漁港内の食事処で自ら調理し食べる取組
- ②早朝から実施する定置網漁業体験と宿泊施設や周辺観光スポットとの連携



【定置網漁体験】



【定置網漁の水揚げ】



【自ら獲った魚を捌く】



【漁業関係者の講話】

(2) フォトジェニックな映えスポット

漁船を活用した久美浜湾内絶景フォトスポット（養殖牡蠣棚・砂嘴・etc）の遊覧



【フォトジェニックな場所が多い久美浜湾周辺】

効果

既存の観光アクティビティや宿泊とあわせて久美浜港に観光客が訪れる流れをつくることで、地域全体の経済活性化が見込まれる。

関係者連携

京都府漁業協同組合（漁業者）  
 湊漁業株式会社（漁業者、飲食店）  
 京丹後市観光公社（観光事業者）  
 行政（京丹後市・京都府）

スケジュール

令和7年5月 関係者協議開始  
 令和7年夏頃 飲食店営業開始  
 令和8年3月 ソフト・ハードのブラッシュアップ

## 概要

- 周辺を海に囲まれている、隠岐西ノ島は水産資源に恵まれ、昔から島民の漁業に対する依存度は極めて高かった。特に浦郷漁港においては、まき網漁業により荷揚げされたイワシは、「浦郷メザシ」として加工され、内外ともに有名となった。
- [浦郷＝漁業の町]『にぎわいある町』であったが現在は、昔のような面影がない。その理由としては、本土側でのまき網漁業の水揚げ、隠岐汽船の抜港による人の流れの減少、店舗等の減少等が挙げられる。
- 『にぎわいある町』[浦郷＝漁業の町]として漁港再生を図り、**水産物消費の増進や交流人口の拡大**を図る。



## 海業の取組概要



## 効果

- 取組実施により、浦郷漁港周辺に「にぎわい」が創出され、まちの活性化が期待される。
- ・ 飲食施設による地元水産物値の消費拡大、魚食普及
  - ・ 働く場所やシゴトの創出関係人口や交流人口の増加
  - ・ 移住、定住による人口の増増加

## 協力体制

JFしまね浦郷支所（水産物の提供）  
西ノ島町全域集落（水産物の供給）  
株式会社日本海隠岐活魚倶楽部（加工品開発、製造）  
西ノ島町観光協会（イベント企画）  
西ノ島町商工会、町内事業者、浦郷区  
西ノ島町  
島根県

## スケジュール

R7年度～ 海業の取組内容について、関係者間で協議  
R8年度～ 事業実施に向け、計画の作成協議  
R9年度～ 取組開始

概要

- 観光協会と漁業会、地域の若者会で構成する協議会を設立し、親子連れや観光客を対象に地引網体験やマルシェを開催。
- 年1回の夏のイベントとして海上綱引き大会を開催。BBQに地元の漁師が獲った海産物も提供。この取り組みは、稲積漁港内の北浦海水浴場にある北浦地区活性化協議会を拠点として実施。
- SUPやスキューバダイビング、遊漁船などの事業者を迎え入れ、さまざまなアクティビティ体験が可能に。
- 夏季（1年半程度の期間）には2.4万人以上の来場者があるものの、季節に偏りがあるため夏季以外にも賑わいを創出する方法を考案する必要がある。



海業の取組概要



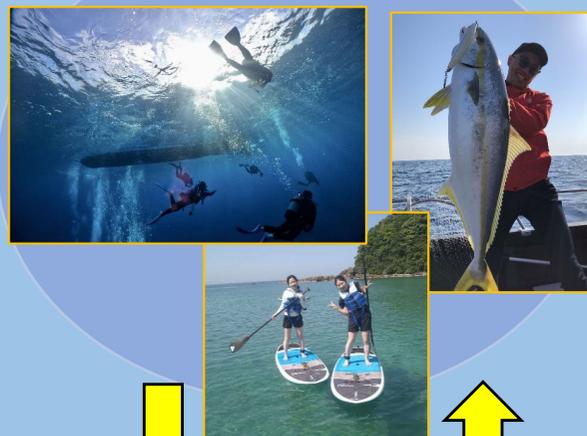
●海上綱引き大会  
海上に浮く2つの台船から互いを引き合い、相手チームを海に落とすと勝利する。毎年、50以上のチームが参加する。



●地引網体験  
網に繋がる紐を2か所から引き魚を獲る伝統的な漁法を体験。年2～3回開催。毎回100人以上の親子連れで賑わう。併せてマルシェも実施。



●アクティビティ

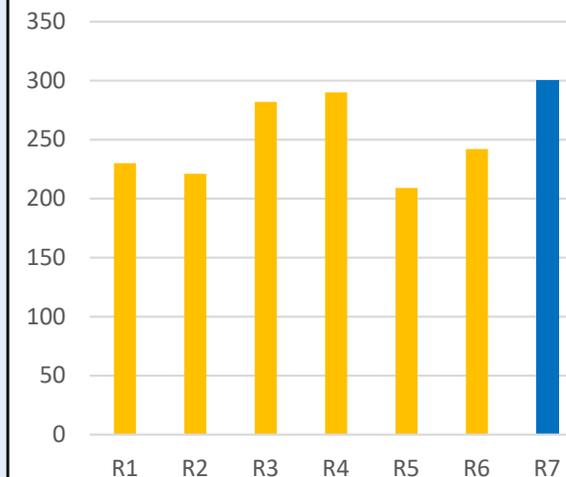


●民宿・海の家



効果

交流人口の拡大・見込数（百人）



令和7年度には、環境保全と密漁禁止に関する普及活動として、区域を指定したうえで子どもたちによるサザエの掴み取り体験を複数回実施予定であり、さらなる体験機会の創出が期待できる。

**概要**

- 志賀島漁港では、福岡市漁業協同組合により、漁業者向けの集会施設として整備された「志賀島センター」において、過去には、直売所等も営業されていたが、現在は利用されていないことから、民間活力を活かし、地元水産物等を販売する直売所や飲食店等へリニューアルする。
- 現在、令和7年度からの段階的な開業を目指し、市街化調整区域の規制緩和手続き等を進めている。



**海業の取組概要**

位置図（航空写真）



志賀島センター（外観）



**1 階：直売所・売店**

【直売所イメージ】



地元農水産物等を販売する直売所や  
地域住民向けの日用品や食品等を販売する売店

**2 階：飲食店**

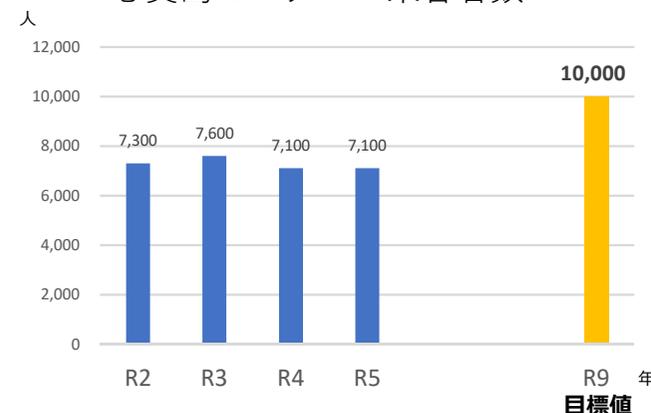
【飲食店イメージ】



地域の農水産物等を用いた  
料理を提供する飲食店

**効果**

志賀島センターの来客者数



**協力体制**

民間事業者（うみの株式会社）  
福岡市漁業協同組合（志賀島支所）  
福岡市（農林水産局）

**スケジュール**

令和6年度～ 市街化調整区域  
規制緩和手続き 等  
令和7年度 段階的にオープン  
(オープン時期は調整中)

**概要**

- 唐泊漁港では、整備から約40年が経過し、老朽化した「福岡市海づり公園」の再整備を進めており、令和8年度のリニューアルオープンを目指している。
- そのリニューアルオープンを機に、「福岡市海づり公園」の一部スペース（緑地部等）において、民間活力を活かし、新たな賑わいを創出するため、現在、事業内容の検討を進めている。



**海業の取組概要**

**位置図（航空写真）**



**海づり公園 現況写真**

**【海づり公園】**



**【牡蠣小屋】**



**海づり公園（現況）**

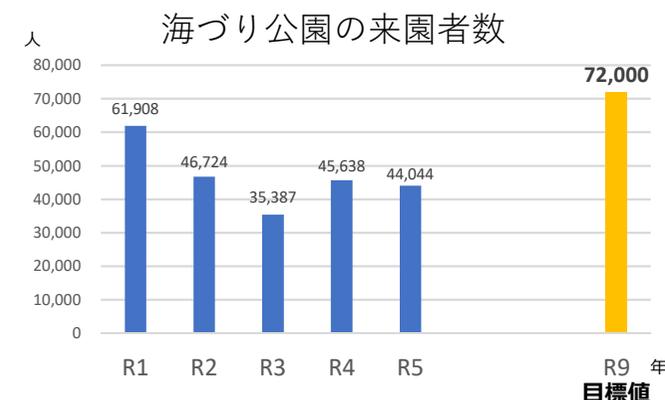


**検討エリア（緑地部等）**



民間活力を活かし、新たな賑わいを創出

**効果**



**協力体制**

福岡市（農林水産局）  
 福岡市漁業協同組合（唐泊支所）  
 ※民間事業者（公募実施予定）

**スケジュール**

- 【全体の再整備】  
令和8年度 リニューアルオープン（予定）
- 【一部スペース（緑地部等）の活用】  
令和7年度 民間事業者へのサウンディング 等  
令和8年度 事業者選定  
令和9年度～ 整備 等  
(オープン時期は調整中)

取組概要 施設整備と漁業体験等による新たな集客と漁港漁村の賑わいの創出：<sup>たちうら</sup>館浦漁港（長崎県平戸市）

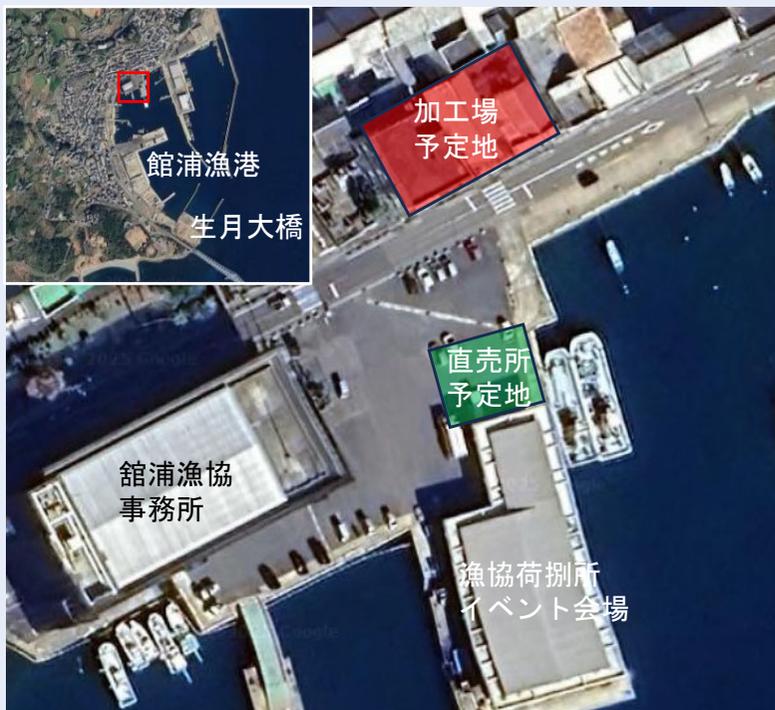
概要

- 地元水産物の加工・製造を担う加工場、観光客等に水産物や加工品を提供する直売所を整備し、**新たな集客と所得・雇用の創出**に取り組む。
- 一般者を対象に定置網等の漁師体験、歴史や文化を学ぶ漁村体験、海洋プラスチックごみ問題の学習等、漁業・観光資源を活用した漁業体験プログラムを実践し、**都市と漁村の交流を推進**する。
- 地元で多獲されるシイラの認知度向上のための「シイラヴフェスタ」やシイラ釣り大会、ならびに伝統的な和船による櫓漕ぎ競争大会等のイベントを毎年開催し、**漁港漁村地域の賑わいを創出**する。



海業の取組概要

- 施設整備予定地
- 漁業体験プログラム



●シイラヴフェスタ



●シイラ姿づくりショー



- ・館浦漁協は漁業体験プログラムへの参加をR6年度からHPで試験的に公募している(右上)。
- ・シイラをR4年度にブランド化し(とよひめシイラ、脂質4%以上のメス)、イベント等でPRしている(右下)。



効果

本取組により、**生月地区を訪れる観光客数の3割増加**を目指す。  
 生月地区を訪れる年間観光客数  
 R 5年 11万5千人※  
 R11年 15万人(3割増、+3万5千人)  
 ※R5年平戸市観光統計

協力体制

館浦漁協は以下の行政、関係団体と連携して海業を推進する。

- 行政
- ・長崎県、平戸市（水産、漁港、観光）
- 関係団体
- ・まちづくり協議会
  - ・生月船員福祉会
  - ・生月建設業協会
  - ・博物館「島の館」
  - ・まき網漁船団、沿岸漁業者
  - ・Re:ism (リズム)
  - ・(漁網回収・リサイクル)

スケジュール

- ・R7年度 水産加工場整備
- ・R8年度 漁業体験交流施設改修
- ・R9年度 水産物直売所整備
- ・毎年 漁業体験プログラム、イベント開催

## 概要

- 苓北町の水産業は、人口減少や少子高齢化、漁獲量の減少に伴う漁業所得の低下等により、後継者の不足など漁業担い手の確保といった課題を抱えており、漁村の活力が低下している。
- 町の玄関口である西川内漁港では、国道に接し、観光資源にも恵まれている。
- 観光資源等を活用した集客や販売で水産物の消費を増進し、交流人口の拡大、地域の所得向上、雇用機会の確保につなげるため、海業振興に取り組む。



## 海業の取組概要

### 主な取組

- ・ イルカウォッチングの推進
- ・ 釣り大会・朝市などイベント開催
- ・ 直売所、飲食店、水産加工品開発販売
- ・ キッチンカースペースの確保
- ・ 試験養殖、培養施設整備（ウニ、ナマコ等）を検討中

### 背景

- ・ 漁業者数の減少により低利用用地がみられる。
- ・ 漁港は国道に接した苓北町の玄関口にあたり、眺望も良く観光資源に恵まれることから集客は見込める。
- ・ 地元では漁村地域が活性化し、地域住民が輝ける場の創出を目指している。



令和5年度から天草の様々な特色を持ったお店を集めたマルシェを開催（年1回）。

地元の水産物や水産加工品の開発販売を拡大し、交流人口の増加、地域の所得向上、雇用機会の確保につなげるため、海業振興に取り組む。



令和6年度 OPPAI Rockマルシェ



西川内漁港

## 効果

- ・ 交流人口拡大（10,000人/年）
- ・ 雇用創出（10名）
- ・ 地域の所得向上（5,000万円/年）
- ・ 漁獲量増加（2t/年）

## 協力体制

天草漁業協同組合  
苓北町水産振興協議会  
西川内区（老人会・女性の会含む）

## スケジュール

令和7年度 推進計画策定  
令和8年度 店舗等の販売開始  
水産イベントの開催  
令和9年度 試験養殖開始

地域交流のシンボルとなる「おっぱい岩」



概要

香々地地域周辺には、「花とアートの岬 長崎鼻」や「真玉海岸恋叶ゆうひテラス」といった観光地が存在する。「長崎鼻」では、ひまわりや菜の花の開花時期には、多くの観光客が訪れ、宿泊施設の増設も行われている。今後、浜焼き小屋、直売所の整備が計画されており、更なる観光客の増加が見込まれている。

観光客は、旅行先での食事に大きな期待を寄せており、地域特有の食体験は観光の付加価値を高める重要な要素となっている。しかし、現状では地域団体商標に登録されている「岬ガザミ」は需要に対して供給量が著しく不足しており、新たな地域産品としてカキ養殖を開始することで、新たな地域の魅力創出と発信が可能となる。

海業の取組概要

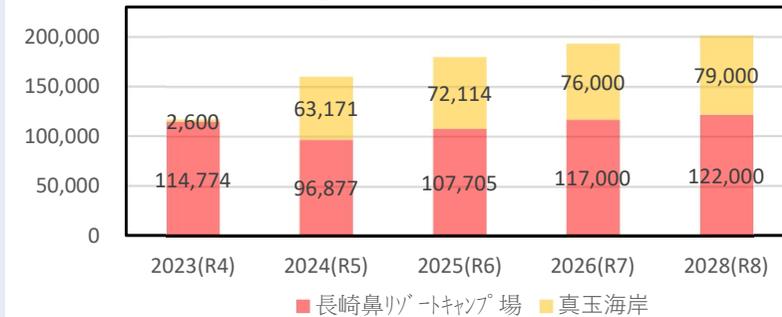
- 漁港区域内にある漁港施設及び水域を活用し、カキ養殖施設の新設により、安定供給の確保
- 周辺の観光施設（キャンプ場、浜焼き小屋、直売所）へ供給し、地域の雇用創出及び漁業者の所得向上に貢献



効果

- ・ 漁業者の収入源の多角化
- ・ 観光客の滞在時間の延長と消費額の増加

【年別観光客数（人）】

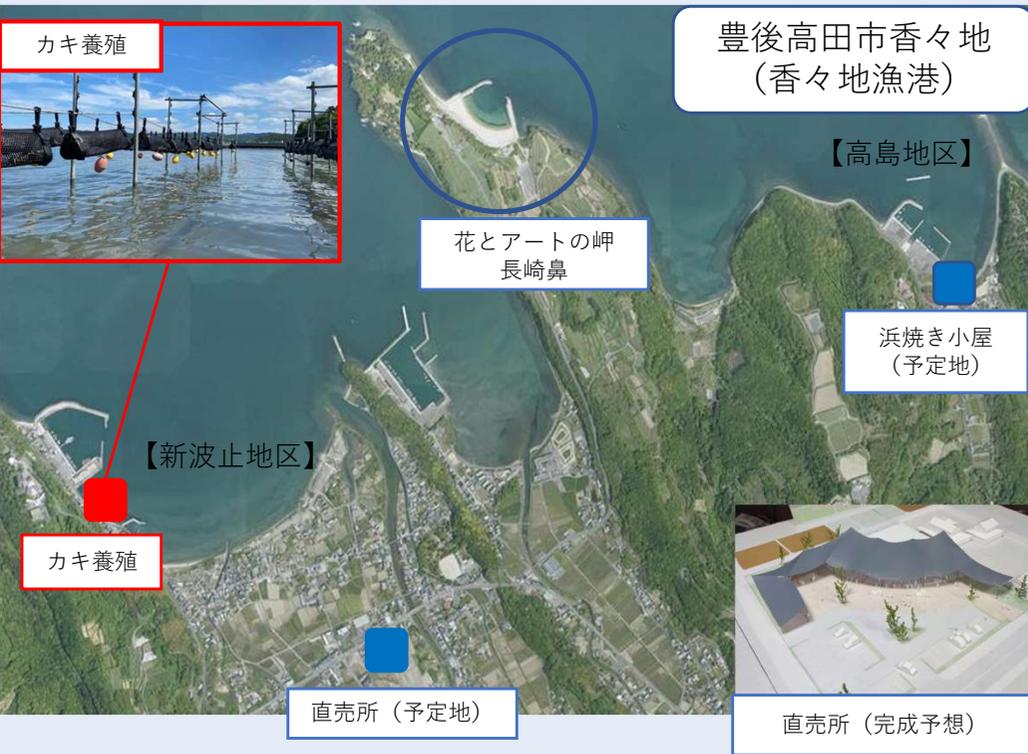


協力体制

- ・ 豊後高田市
- ・ 豊後高田市水産振興養殖事業促進協議会
- ・ 大分県漁業協同組合香々地支店
- ・ 大分県農林水産研究指導センター水産研究部 北部水産グループ
- ・ 大分県北部振興局水産班

スケジュール

- ・ 2022年 試験養殖開始
- ・ 2025年 養殖開始、試験販売開始
- ・ 2026年～浜焼き小屋、直売所へ出荷



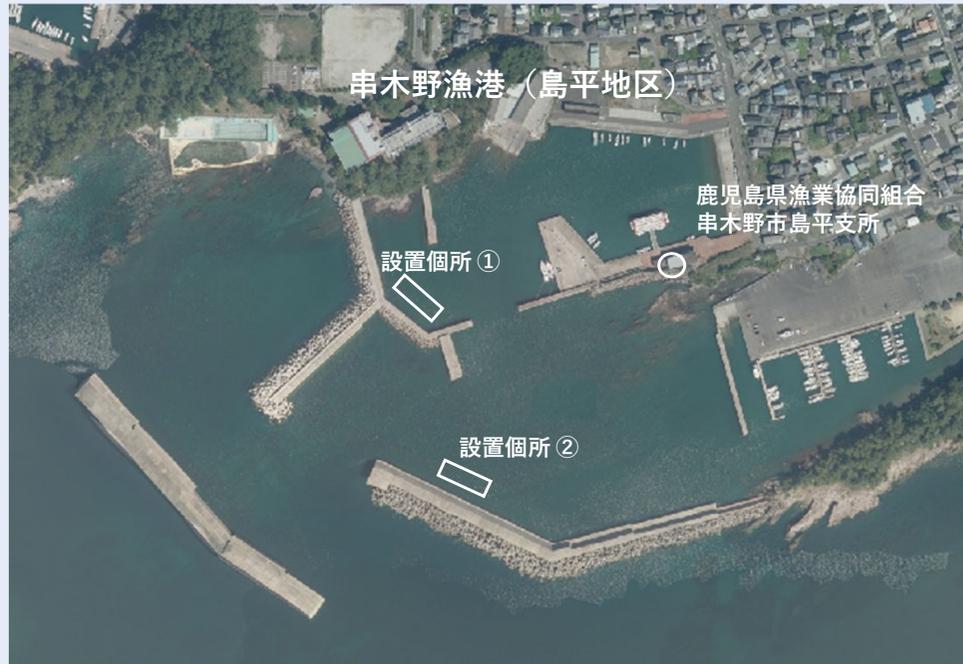
# 漁港内の静穏水域を活用した「ヒオウギ貝」試験養殖：串木野漁港（鹿児島県いちき串木野市）

## 概要

- 鹿児島県漁業協同組合串木野市島平支所では、一本釣り漁業や延縄漁業によるマダイの水揚げが中心で、県内有数のマダイの水揚げ港であったが、漁獲量や水揚金額の減少、また漁業者の高齢化や後継者不足により漁村地域の衰退が懸念されている。  
このような中、新たな漁業経営の確立を目指す方法として「ヒオウギ貝」の試験養殖を令和5年度から実施している。

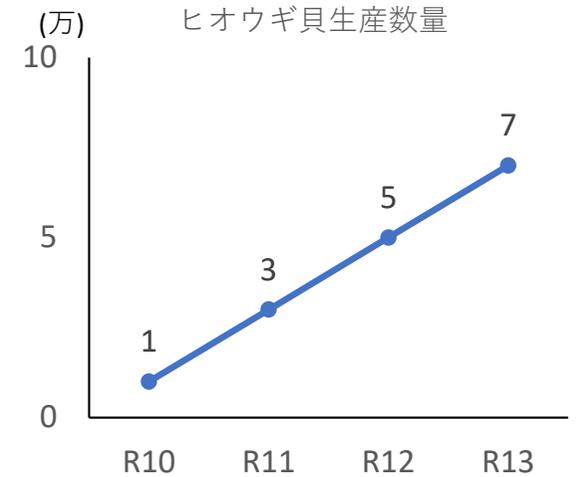


## 海業の取組概要



- 令和5年11月に稚貝を設置し、令和6年12月に引揚げ作業等を行った。
- 月に1回貝の成長を測定し、引揚げまでに網替え・貝の付着物の除去作業を3回行った。引揚げ時には出荷・販売を想定した貝の付着物の除去のほか、貝の研磨作業を行った。
- 今後様々な課題をクリアしながら、事業展開を目指す。

## 効果



本格的に事業化に向けて展開する場合には改めて区画漁業権を取得し（令和10年度目標）、漁港内の荷捌施設を活用した直販や地元飲食店等での販売により、地元水産物の消費拡大を図り、漁業者の所得向上や漁村地域の活性化を目指す。

## 協力体制

鹿児島県漁業協同組合串木野市島平支所  
鹿児島県  
いちき串木野市



概要

- 枕崎お魚センターは、国内有数のカツオ、青物等の陸揚港である枕崎漁港直送の水産物の直売、食堂施設として平成5年にオープン。枕崎市のランドマークとして多くの入館者が訪れ賑わった。
- 施設の老朽化もあり入館者が減少。そのため、令和5年度に、2階にあったレストランを1階の直売所と集約し、2階は多目的スペースとして、外観とともにリニューアルして入館者数が回復。
- 更なる入館者数の増加を図るため、2階スペースの市民による利用を促進し、その後、市外・県外からの来訪者の増加を図るための市内観光スポットと連動したメニューを構築する。



海業の取組概要



1階フードコート：かつお節，出汁の無料提供が人気

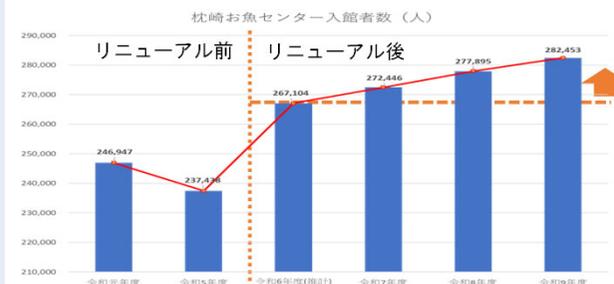


2階多目的スペースの利用促進：

市内の小・中学生を対象に漁獲物を使ったさばき方教室の開催→子どもを介し親の利用増



効果



協力体制

枕崎市，枕崎お魚センター，  
枕崎市漁業協同組合，枕崎市観光協会，  
枕崎水産加工協同組合，  
その他市内団体等

スケジュール

令和7～8年度：  
さばき方教室を年間3回程度開催  
令和9年度以降：  
他の市内観光スポットや焼酎蔵などが  
見学ができるツアーメニューを構築